

誰もがいつまでも楽しめるニュースポーツ。このコーナーでは、さまざまなニュースポーツの魅力を紹介します。

今月のスポーツ

キンボールスポーツ

カナダ発祥のスポーツ「キンボールスポーツ」。直径122cm、重さ1kgの巨大なボールを使い、ヒット(攻撃)とレシーブ(守備)を繰り返して得点を競います。2チーム対抗で戦うスポーツが多い中、同じコートで3チーム(1チーム4人)が対戦し、レシーブミスなどをしたチーム以外に得点が入ります。

競技のここが楽しい!

チームで作戦を立てて攻撃したり、巨大なボールを落とさないようにみんなで協力してレシーブしたりして、和気あいあいと楽しめます。



▲競技の紹介

巨大なボールに1度触れれば、夢中になること間違いなし!



日本代表候補

かまだ だい き 鎌田 大輝 さん

レベルに応じてさまざまな競技部門があります。3年に1度、世界大会も開催されています。



日本代表候補

やましろ な な 山城 菜々 さん



問合せ

三重県キンボールスポーツ連盟(田中 ☎ 090-2944-5329)



ひと・まち・モータースポーツ

「日本グランプリ」初開催から60年

昨年、鈴鹿市制施行80周年、鈴鹿サーキット開場60周年という記念の年でした。今年も日本のモータースポーツにとって、記念の年であることをご存知でしょうか。

60年前の5月3日・4日、国内外の精鋭マシンやドライバーが集まった初の国際レース「第1回日本グランプリ自動車レース大会」が鈴鹿サーキットで開催されました。現在のF1とは違い、市販車をメインにした、排気量などでクラス分けがなされたレースでしたが、会場は連日10万人以上の観客が詰め掛ける大盛況。一方で、日本勢が欧米の自動車技術に圧倒されるという衝撃的な2日間でもありました。

日本グランプリ開催時は、国内初の高速道路「名神高速道路」の開通の前年で、まさにわが国のモータリゼーションの黎明期^{れいめいき}でした。その後、高速道路の開通や鈴鹿サーキットでのレースを通じて、国産自動車メーカー各社の開発・進化は急加速。日本の自動車産業は、世界有数のものとなりました。

60年前に開催された「日本グランプリ」は、国内モータースポーツの出発点であるとともに、自動車産業の発展のきっかけになったと言えるでしょう。



©鈴鹿サーキット

▲第1回日本グランプリ自動車レース大会(1963年5月)

なかのよししげ

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



6年ぶりに開催されたワールド・ベースボール・クラシックでは、侍ジャパンの面々が活躍をみせました。中でも、ヌートバー選手がチームに勢いを与える大活躍。“小さなことからコツコツと継続すれば、良いことが起きる”の意味をこめたペッパーミルパフォーマンスは、話題となりました。地道な努力は、全てに共通する大切なこと。パフォーマンスだけでなく、その考え方や取り組み方をまねたいものです。

さて、今回の特集では、新たに誕生する南消防署天名分署を紹介しました。紙面でも紹介したように、南部地域では、現場への到着時間が大幅に短縮されます。そこで活動するのは、日頃から地道にトレーニングを続けられた消防職員や消防団員の皆さん。地域の皆さんに、きっと“良いこと(安全・安心)”をもたらしてくれることでしょう。(一)